

2013 年 8 月 30 日
森ビル株式会社

多様な感性に出会い、「自分軸」を磨く 1 日
「六本木アートカレッジ」 11 月 24 日(日)開講
谷川俊太郎、水野学、真鍋大度、名和晃平らクリエイティブトーク 20 講座

森ビル株式会社が運営する「アカデミーヒルズ」(理事長 竹中平蔵)は、1 日 4,000 円で、全 20 のアート関連講座を好きなだけ受講できるワンデーイベント「六本木アートカレッジ～おもしろい未来がやってくる!～」を 11 月 24 日(日)に開催します。

「六本木アートカレッジ」は、社会人向けに年間 200 本以上のプログラムを提供する「アカデミーヒルズ」が、ビジネスパーソンを対象にわかりやすく、多様性と現代性をもつ切り口で、「自分にとっての『アート』とは何か?」を考える機会を提供するセミナーシリーズです。

2011 年からスタートした秋の「六本木アートカレッジ」。1 日まるごと“アート”の学校として、毎回 1000 名の受講者を集め、新しい刺激に出会い、興味を広げることで自分らしい感性を磨くきっかけを提供しています。

「六本木アートカレッジ～おもしろい未来がやってくる!～」

今年のテーマは「未来」。
谷川俊太郎、水野学、真鍋大度など、世界をおもしろくする多様なゲストの登壇が決定!

今年のテーマは「未来」。詩人の谷川俊太郎氏や、「くまモン」のキャラクターデザインなどで話題のクリエイティブディレクター水野学氏と阿川佐和子氏の対談が決定!

PerfumeのPVやライブ演出など、国際的なメディアアートシーンで活躍する真鍋大度氏や、彫刻家の名和晃平氏によるアーティストトークなど、世界をおもしろくするクリエイティブなゲストが、アイデアの源泉を発信し、未来をワクワクさせる“アート”の可能性を追求します。

1日4,000円、全20講座を自由に選択受講可能。

1講座60分、全20講座を開講。「自分なりの軸」で自由に講座選択できます。

【開催概要】

■開催日: 2013年11月24日(日) 10:00~18:30

■場 所: アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

■参加費: 4,000円(全20講座)

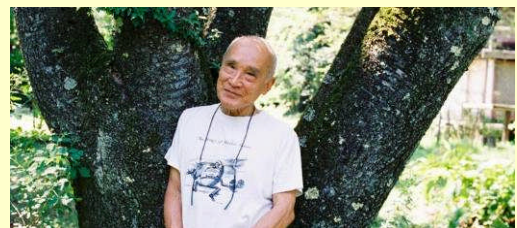
■入場者: 定員1000名

■申 込: Webサイトにて一般募集(10月初旬募集開始)

■主 催: アカデミーヒルズ

■特別協力: 六本木アート・トライアングル※略称あとろ
(国立新美術館、サントリー美術館、森美術館)

■協 力: 株式会社 umari、AIT、サントリーホール、JAXA、J-WAVE、SWITCH、
Discover Japan、ナナロク社、六本木未来会議(五十音順)



谷川俊太郎(詩人) photo by 川島小鳥



水野学(クリエイティブディレクター)阿川佐和子(作家・エッセイスト)



真鍋大度(アーティスト) photo by kazuaki seki

ぜひご取材および事前告知をご検討いただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

◇本件に関する報道関係者の方のお問合せ先◇

森ビル株式会社アカデミーヒルズ事業部スクール事務局 担当: 佐野

Tel 03-6406-6200 Fax 03-6406-9350 E-mail: biz@academyhills.com

「六本木アートカレッジ」とは ～多様性を認め、自分らしい感性をみがく場～



竹中平蔵
アカデミーヒルズ理事長

パーソナルな時代に必要なのは「自分の評価軸」を明確化すること

今の時代を表現するキーワード、「グローバル化」そして、「ソーシャルメディア化」。この2つの現象により、国や社会、会社などの組織よりも、個人が力を持ち、個人が表舞台に立つパーソナルな時代がやってきます。

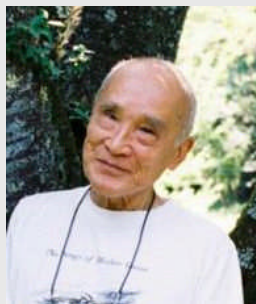
パーソナルな時代に必要なのは、「自分の評価軸」、「自分の価値基準」を明確にすること、個人で判断し選択する力です。正に「自分らしく生きる」ことなのです。

その「自分らしさ」を探し求めるためには、効率や経済性以外の別の価値基準を提供する可能性を秘めているアートに関心を持ち、毎日の生活にアートの視点、コンセプトを入れることが重要になってくるでしょう。

また、アートは個人へ影響を与えるだけではなく、「ソフト・パワー」として、社会の価値や仕組みを変える大きな力へ発展もします。そのときに必須なものは、アートを提供する側（作品を創るアーティストやモノやコトを提供する企業など供給サイド）だけではなく、それに価値を見出す力を持つ個人（需要サイド）の存在です。

社会、経済、政治と密接な関係にあるアートの可能性が無限に広がり始める今、アートに触れ、アートの視点を持つことにより自分の軸を創り、自分らしく生きる個人を育む、それが「六本木アートカレッジ」の目的です。

【11月24日 「六本木アートカレッジ」 登壇ゲスト】



谷川俊太郎(詩人)

1952 年、詩集『二十億光年の孤独』でデビュー。

1962 年『月火水木金土日のうた』で第 4 回日本レコード大賞作詞賞、

1975 年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞、

1982 年『日々の地図』で第 34 回 読売文学賞、

1993 年『世間知らず』で第 1 回 萩原朔太郎賞、ほか受賞・著書多数。

詩の他に作詞、絵本、翻訳、映画脚本など幅広いジャンルで活動。

また中国など様々な国で作品が翻訳され世界的な評価も高く得ている。



水野 学 (クリエイティブディレクター/good design company 代表取締役 慶應義塾大学特別招聘准教授)

1972年東京生まれ。1996年多摩美術大学卒業。1999年good design company 設立。

ロゴ、商品企画、パッケージ、インテリアデザイン、ブランディングまでトータルにディレクションを行う。主な仕事に、NTTドコモ「iD」、「農林水産省」CI、宇多田ヒカル「SINGLE COLLECTION VOL.2」「桜流し」、台湾セブンイレブン「7-SELECT」リブランディング、熊本県キャラクター「くまモン」、「中川政七商店」ほか。世界三大広告賞のOne Show で金賞ほか受賞歴多数。近著に『アウトプットのスイッチ』（朝日新聞出版）



阿川佐和子(作家・エッセイスト)

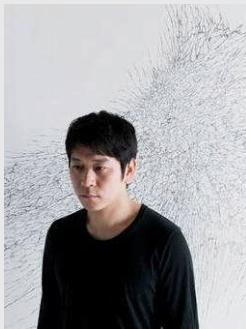
1953 年東京生まれ。慶應義塾大学文学部西洋史学科卒業。1981 年 TBS『朝のホットライン』のレポーターを務め、以後、TBS『情報デスク Today』、『筑紫哲也 NEWS23』ではキャスターを務める。『週刊文春』の「阿川佐和子のこの人に会いたい」対談連載、TBS『サワコの朝』などマルチに活躍中。1999 年に檀ふみ氏との共著『ああ言えばこう食う』で講談社エッセイ賞、2000 年『ウメ子』で坪田譲治文学賞、2008 年『婚約のあとで』で島清恋愛文学賞を受賞。新書『聞くカー心をひらく 35 のヒント』小説『正義のセ』1～3 巻など著書多数。



photo by kazuaki seki

真鍋大度(アーティスト)

1976 年生まれ。東京理科大学理学部数学科卒業、国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS) DSP コース卒業。ジャンルやフィールドを問わずプログラミングを駆使して様々なプロジェクトに参加。MIT MediaLab、Fabrica を初め世界各国でワークショップを行うなど教育普及活動にも力を入れる。Prix Ars Electronica では 2009 年度審査員を務め、2011 年度インタラクティブ部門準グランプリ受賞。文化庁メディア芸術祭においては大賞 1 回、優秀賞 2 回、審査委員会推薦作品選定は 7 回を数える。株式会社 Rhizomatiks 取締役。石橋素と 4nchor5 la6(アンカーズ・ラボ)を共同主宰。



撮影: 表恒匡 | SANDWICH

名和晃平(彫刻家)

1975 年生まれ。彫刻家、京都造形芸術大学准教授。独自の「PixCell」という概念を機軸に、多様な表現を展開する。2009 年より京都・伏見区に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げ、様々なプロジェクトに携わる。2011 年には東京都現代美術館で個展を開催。2013 年には瀬戸内国際芸術祭や愛知トリエンナーレへ参加。また、韓国・チョナン市に巨大な屋外彫刻“Manifold”を設置するなど、国内外で精力的に活動する。



津田大介 (メディアアクティビスト)

1973 年生まれ。東京都出身。早稲田大学社会科学部卒。関西大学総合情報学部特任教授。早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコース非常勤講師。東京工業大学リベラルアーツセンター非常勤講師。J-WAVE「JAM THE WORLD」ナビゲーター。NHK「NEWS WEB 24」ネットナビゲーター。一般社団法人インターネットユーザー協会(MIAU)代表理事。メディア、ジャーナリズム、IT・ネットサービス、コンテンツビジネス、著作権問題などを専門分野に執筆活動を行う。ソーシャルメディアを利用した新しいジャーナリズムをさまざまな形で実践。ポップカルチャーのニュースサイト「ナタリー」の創業・運営にも携わる。

主な著書に『ウェブで政治を動かす!』(朝日新書)、『動員の革命』(中公新書ラクレ)、『情報の呼吸法』(朝日出版社)、『Twitter 社会論』(洋泉社新書)、『未来型サイババル音楽論』(中公新書ラクレ)ほか。2011 年 9 月より週刊有料メールマガジン「メディアの現場」を配信中。

嶋浩一郎 (編集者・クリエイティブディレクター/博報堂ケトル代表取締役社長・共同 CEO)

1968 年生まれ。93 年博報堂入社。02 年から 04 年に博報堂刊『広告』編集長を務める。04 年「本屋大賞」を立ち上げ、現在 NPO 本屋大賞実行委員会理事。06 年に「博報堂ケトル」を設立。カルチャー誌『ケトル』(太田出版)編集長のほか、エリアニュースサイト『赤坂経済新聞』編集長など、メディアコンテンツにも積極的に関わっている。編著書に『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』(ディスカヴァー21)、『このツイートは覚えておかなきゃ。』(講談社)、『人が動くものが売れる編集術 ブランド「メディア」のつくり方』(誠文堂新光社)など。

長嶋りかこ (アートディレクター/デザイナー)

1980 年生まれ。2003 年武蔵野美術大学卒業後、同年博報堂入社。ラフォーレ原宿の広告をはじめ、装丁、ロゴ、サインなどのグラフィックデザイン等幅広く手がける。また現代美術家の宮島達男氏とともにアートプロジェクト「Peace Shadow Project」を立ち上げるなど活動は多岐にわたる。2013 年には自信のブランド「Human_Nature」をスタート。NYADC 銀賞、東京 ADC 賞、JAGDA 新人賞ほか受賞。2012 年から最年少 ADC 会員。2013 年はニューヨーク ADC の審査員を務める。

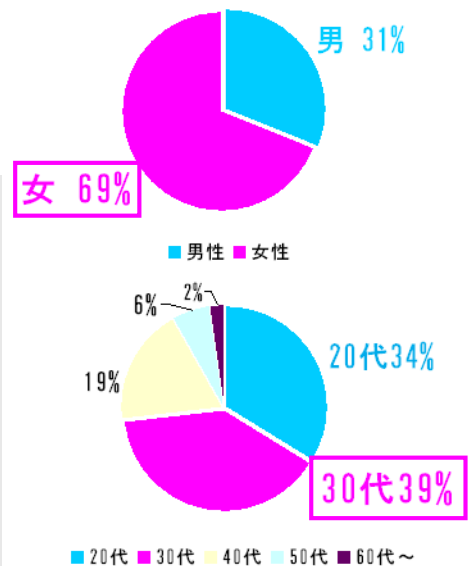
他、多彩なゲスト 30 名強が登壇予定

(参考①)六本木アートカレッジの受講者プロフィール ※2012 年 10 月 8 日開催アンケートより

- 申込者数:1,133 名
- 男女比 3:7
- 20 代、30 代が 8 割を占める
- 8 割がビジネスパーソン

Voice 2011, 2012 ～参加者たちの声～

- ・アート講座のフジロック(30 代会社員)
- ・講師との距離が近く、話かけられるような距離感が良かった(20 代会社員)
- ・今後の日本にとって重要な価値感を育てる目が離せないプログラム。(30 代会社員)
- ・「いわゆるアート」寄りかと思ったら、生活から街まで様々な環境、視点からの講座だったため、思った以上におもしろかった。(30 代会社員)
- ・それまであまり興味がなく、アンテナをはってはいないようなことも、話を聞いたら実はすごく面白かったという発見(30 代会社員)
- ・アートに興味を持っている人がたくさん集まることによって、アートの力を感じることができた(40 代会社役員)



【伊勢神宮・出雲大社】【武士道】【歌舞伎】など、日本の伝統・和を特集したセミナーが大盛況

六本木アートカレッジのセミナーシリーズ(約 15 回/年に開催中)では、ビジネスパーソンが知りたい分野を 1 回 90 分で受講できる入門編としてお届けしています。なかでも、雑誌『Discover Japan』と連動して開催しているシリーズ「日本の魅力再発見」の扱うテーマが人気を博しています。

「日本の魅力、再発見:Discover Japan」 2013 年人気講座

- ①「伊勢神宮と出雲大社に、今年参拝したい本当の理由」8/20 開催
- ②「90 分でわかる武士道」2/8 開催
- ③「新しい歌舞伎入門」4/11 開催
- ④「目からウロコの日本の城の秘密」6/21 開催

※今後の「六本木アートカレッジ・セミナーシリーズ」開催予定

■シリーズ「日本の魅力、再発見:Discover Japan」

テーマ:京都の歴史(仮)

日時:9 月 27 日(金)19:00～20:30

受講料:3,500 円(税込み)※『Discover Japan』進呈

講師:柏井壽(作家)

モデレーター:高橋俊宏(「Discover Japan」編集長)

■シリーズ「街・人を変えるソーシャルデザイン」第 5 回

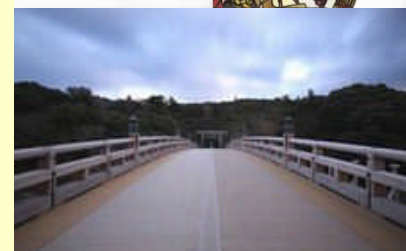
テーマ:森林業、持続可能な地域再生の実現(仮)

日時:10 月 7 日(月)19:00～20:30

受講料:3,000 円(税込み)

ゲスト:竹本吉輝(株)トビムシ 代表取締役)

ファシリテーター:古田秘馬(株)umari)

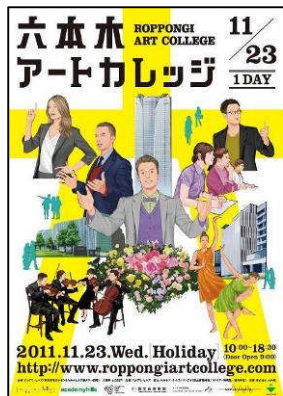


伊勢神宮に年間八百万人の参拝者が訪れるのはなぜ?など、学校では教わらない、でも、知っておきたい内容が人気。

（参考②）六本木アートカレッジ 開催状況

2011 年からスタートした六本木アートカレッジには、過去、中田英寿氏、池上彰氏、横尾忠則氏、篠山紀信氏、坂本龍一氏など多彩なゲストが登壇しています。

2011 年 11 月 六本木アートカレッジ（ワンデーカレッジ）Vol.1
～アートってこういうことだったのか！～



開催日:2011 年 11 月 23 日(木・祝)
講座数:21 講座

【主な登壇者】

- ・伊勢谷友介(俳優/監督/Rebirth Project 代表)
 - ・中田英寿(一般財団法人 TAKE ACTION FOUNDATION 代表理事)
 - ・会田誠(美術家)・津田大介(メディアアクティビスト)
 - ・猪子寿之(チームラボ(株)代表取締役社長)・南條史生(森美術館館長)
 - ・竹中平蔵(アカデミーヒルズ理事長)
- 他、総勢 40 名登壇



2012 年 10 月 六本木アートカレッジ（ワンデーカレッジ）Vol.2
～アートでエネルギーチャージ！～



開催日:2012 年 10 月 8 日(月・祝)
講座数:23 講座

【主な登壇者】

- ・生駒芳子(ファッション・ジャーナリスト)
 - ・大宮エリー(作家・脚本家・映画監督)・篠山紀信氏(写真家)
 - ・松井冬子(アーティスト)・横尾忠則(美術家)
 - ・柿沢安耶(パティスリーポタジェ オーナーパティシエ)
 - ・谷尻誠(建築家)・松本紹圭(僧侶)・西陽子(箏奏者)
 - ・竹中平蔵(アカデミーヒルズ理事長)
- 他、総勢 40 名登壇



2013 年 4 月 六本木アートカレッジSPRING Vol.3 ※六本木ヒルズ 10 周年イベント
～アートでエネルギーチャージ！～



開催日:2013 年 4 月 29 日(月・祝)
講座数:10 講座

【主な登壇者】

- ・石田衣良(作家)
 - ・丸山敬太(KEITA MARUYAMA デザイナー)
 - ・鶴田真由(女優)・幅允孝(ブックディレクター)
 - ・みうらじゅん(イラストレーターなど)
 - ・ジャン=ミッシェル・オトニエル(「LOVE 展」出展アーティスト)
- 他、総勢 15 名登壇



【アカデミーヒルズ<http://www.academyhills.com>】

森ビルは「世界的文化都心の創造」をビジョンに、街づくりに「都市を創る(ハード面)」と「都市を育む(ソフト面)」の両面から取り組んでいます。「都市を育む」取り組みの一つとして、森ビルが運営するアカデミーヒルズ(理事長竹中平蔵慶應義塾大学教授)は「自律的に自立する個人の支援」をミッションに、「Roppongi BIZ」「アーテリジエントスクール」などを運営する「スクール事業」、会員制図書館を運営する「ライブラリー事業」、貸ホール・貸会議室を運営する「フォーラム事業」の3つの機能を軸に、都市生活者に対して「知的活動の場」と「教育の機会」を提供しております。

▽六本木スクール一般問合せ 106-6149 港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー49F

TEL:03-6406-6200/受付時間:10:00-19:00(土・日・祝・年末年始を除く) FAX:03-6406-9350